



「地域を学び、地域で学び、地域と学ぶ」



高等部生による商店街の窓清掃

• かつの校高等部が、地域福祉の向上発展に尽力したことが認められ、「鹿角市社会福祉協議会会長賞」を受賞しました。高等部は、地域の保育園や小学校に出掛けて、リンゴレンジャー公演を通して犯罪や交通事故防止を呼び掛ける啓発運動をはじめ、商店街に種から育てた花を飾ったり、脚立やスクイジーを使った窓清掃に取り組んだりしています。今回受賞対象になってはいませんが、小学部は今年度初めて地域の自治会館の掃除に挑戦しました。また、中学部は校内実習の一環として、鹿角総合運動公園の除草作業や落ち葉集めに汗を流しました。

• 地域と関わりをもつことは、子どもたちが学校での学びを実際場面で活用する機会であり、地域の人から頑張りを認めてもらう機会になります。年齢が上がるにつれて、仲間や地域の人による他者評価が大きく影響します。場合によっては人生を変えるくらい即効性と持続性があります。



【地域学習を展開するに当たってのポイント】

1 縦につながるように

担任が変わっても、各学年・学部の地域学習が縦につながるように、学校として指導内容に一貫性と系統性をもたせます。各教科等の目標の系統性や内容の関連性に十分配慮しながら、目標や活動内容を明らかにして、活動する場所・人・内容が、小学部→中学部→高等部と、縦に段階的につながる計画を立てます。

2 横につながるように

子どもの「やってみたい」と地域の「ニーズ」が合致する活動が横につながるように、地域の人にアンケートをとったり、地域の関係機関と連携したりして地域の課題やニーズを把握します。そして、地域の人を巻き込みながら、活動する場所・人・内容が、家庭・学校→身近な地域→より広い地域へと横に発展的につながる計画を立てます。

• 地域学習のキーワードは、「地域を学び（地域を知る）、地域で学び（地域貢献活動）、地域と学ぶ（地域協働活動）」です。かつの校では、清掃活動や花いっぱい運動などの地域貢献活動に加えて、「地域でイベントを行うので出演してほしい、作業製品を販売してほしい」、「町内会の人と一緒に清掃活動をしませんか」など、地域から依頼を受けて、共に活動する「地域協働活動」も取り入れ、子どもたちの自己肯定感や社会的存在価値を高めていきたいと思えます。

かつの校副校長 加賀谷 勝